

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年8月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1072600321
法人名	医療法人 春香会
事業所名	グループホーム 桐の家 I・II
所在地	群馬県みどり市大間々町桐原634 (電話) 0277-72-0218

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成20年8月19日

【情報提供票より】(20年7月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 2 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数(I)	5 人 常勤 4人, 非常勤 1人, 常勤換算 4.6人
職員数(II)	5 人 常勤 4人, 非常勤 1人, 常勤換算 4.6人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り 2 階建ての 階 ~ 1・2 階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,550及び59,850円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (7月30日現在)

利用者人数	16 名	男性	6 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.53 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小保方医院 加孝歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの運営理念を「・のんびり、ゆっくり、そのひとらしく・穏やかで安らぎのある暮らし・・・」と掲げて支援をしている。地域とのつきあいでは、災害対策は協力体制も得られ一緒に訓練を行っている。また、ダンス、絵手紙、リハビリ教室等のボランティアの受け入れ、保育園児、地域の方が立ち寄ってくれる等で、利用者は多岐にわたって地域の一員として交流を図りながら生活を送っている。一人ひとりが役割、楽しみごと、気晴らしをしながら生活にメリハリを持ちながら、のんびり、ゆっくりと穏やかで自分らしく過ごされている様子が伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①地域とのつきあいは日常的に交流をするようになっている。②家族等への報告は来訪時に報告する、活動の写真を掲示してもらったり電話やメールで報告をするようにしている。③介護計画の見直しは約6ヶ月から3~4ヶ月毎にしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成にあたり、職員全員の意見を求め作成をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催をしており、事業所から利用者の状況や活動、介護の最新情報等を報告し、参加者から意見や要望を聴いている。参加者からはリハビリ体操、折り紙ボランティアの情報提供があり、運営に反映させている。市町村担当者へは連絡をしているが参加されていない現状である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や年1回家族アンケートを実施している。運営推進会議に参加をもらい意見や要望を聴くようにしている。また、家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時に挨拶を交わす、話しをする、育成会の祭りに休憩場所の提供、地域の祭り、小学校の運動会、花の苗を頂く、犬の散歩時に立ち寄ってくれる、避難訓練に参加、保育園児との交流等、地域との交流の機会が持たれている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営理念を掲げてホール内の見やすい位置に掲示してあるが、地域密着型サービスとしての理念の見直しはされていない。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、「地域のなかでその人らしく生活することを支える」ことを職員全員で話し合い、事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア会議や合同会議等で理念に触れ話し合っている。日常の中でも折にふれ話し、共有を図るようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に挨拶を交わす、話しをする、育成会の祭りに休憩場所として提供、地域の祭り、小学校の運動会、花の苗を頂く、犬の散歩時に立ち寄ってくれる、避難訓練に参加、保育園児との交流等、地域との交流の機会が持たれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価作成にあたり、全職員の意見を求め作成をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	定期的開催をしており、事業所から利用者状況や活動、介護の最新情報等を報告し、参加者から意見や要望を聴いている。参加者からはリハビリ体操、折り紙のボランティアの情報提供があり、運営に反映をさせている。市町村の担当者へは連絡をしているが参加はされていない現状である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護相談員の受け入れをしている。市担当者とは電話で相談や介護保険更新の手続き等で連携を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族等の来訪時に日頃の暮らしを報告をしており、行事の写真を見てもらい希望があれば渡すようにしている。定期的に電話やメール等でもするようにしている。誕生日会には家族に参加をしてもらっている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置や年1回家族アンケートを実施している。運営推進会議に参加をしてもらい意見や要望を聴くようにしている。家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には、ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入る場合も、利用者きちんと紹介をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修には職員全員が参加するようにしている。外部研修の新人研修、交換研修等に参加しケア会議等で報告を行い、報告書や資料を回覧し共有を図っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡協議会に加入し、大会や研修会に参加し交流を図っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に見学をしてもらい、お茶などしながら一緒に過ごし雰囲気を知ってもらうようしている。ショートを利用してもらう等して、段階を経て利用してもらうことしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の歌、昔の話、戦争体験、風習、物の大切さ等日々の生活場面で教えられることが多くあり、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や仕草、行動、雰囲気から察しその都度確認をしながら把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族に暮らしぶりを伝え、意見や要望等を聴き、介護計画に反映させるようしている。ケア会議で職員と話し合い、意見を反映させ介護計画書の作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しは3~4ヶ月に1度と状態の変化に応じて随時見直しをしている。モニタリングは定期的見直し期間に合わせて実施している。	○	利用者の状態が安定していても、月1回モニタリングを行い、本人、家族に説明し確認しながら現状に即した新たな介護計画を作成してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、送迎、買い物等本人・家族の要望に合わせて柔軟に支援をしている。近隣の高齢者が状況に応じてショートステイやデイサービス利用ができるように、事業所の多機能性を強化している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明を行い希望するかかりつけ医を決めてもらっている。利用者全員の協力医院がかかりつけ医となっており、週1回訪問診療に来てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときの治療方針が文章化されて関係者全員で共有している。状態に応じて家族との話し合いを繰り返し行いながら意思確認をし支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮して、言葉かけや対応に留意している。事業所の倫理綱領をホール内に掲示してある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意向を確認しながらそれに応じて、意向やペースに沿って過ごせるよう支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	系列の福祉施設で準備されている食事を一緒にとりに行く、テーブルを拭く、汁をよそる、下膳、食器を拭く、家庭菜園の野菜を収穫し時には一品作り添えるなど一緒にやっている。職員は利用者と同じテーブルを囲み食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、水、金と週3回の入浴日を決めて入浴支援をしている。入浴できない場合は清拭を行っている。	○	職員側で決めるのではなく、入浴したい日、希望する時間に入浴ができるように支援をする方向で検討してほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の手入れ、居室や玄関の掃除、洗濯物たたみ、テーブルを拭く、下膳、食器を拭く、野菜を育てる、ジャムや梅干づくり、ダンス、絵手紙教室、買い物、ドライブ、散歩、花見等役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、ドライブ、散歩、野菜の手入れ、庭の花の手入れ、玄関先で外気に触れるなどの機会をつくり季節を肌で感じてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回利用者と一緒に避難訓練を実施している。地域に協力依頼をし、協力委員(20名位)体制ができています。近隣者にも依頼をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にはプランターや花壇に季節の花が咲いる。ホールにはソファがあり、壁には利用者の作品や行事の写真が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、本、化粧品、椅子、テーブル、衣服かけ、時計等が持ち込まれている。また、家族からの手紙が飾られ居心地よく過ごす環境と見受けられた。		